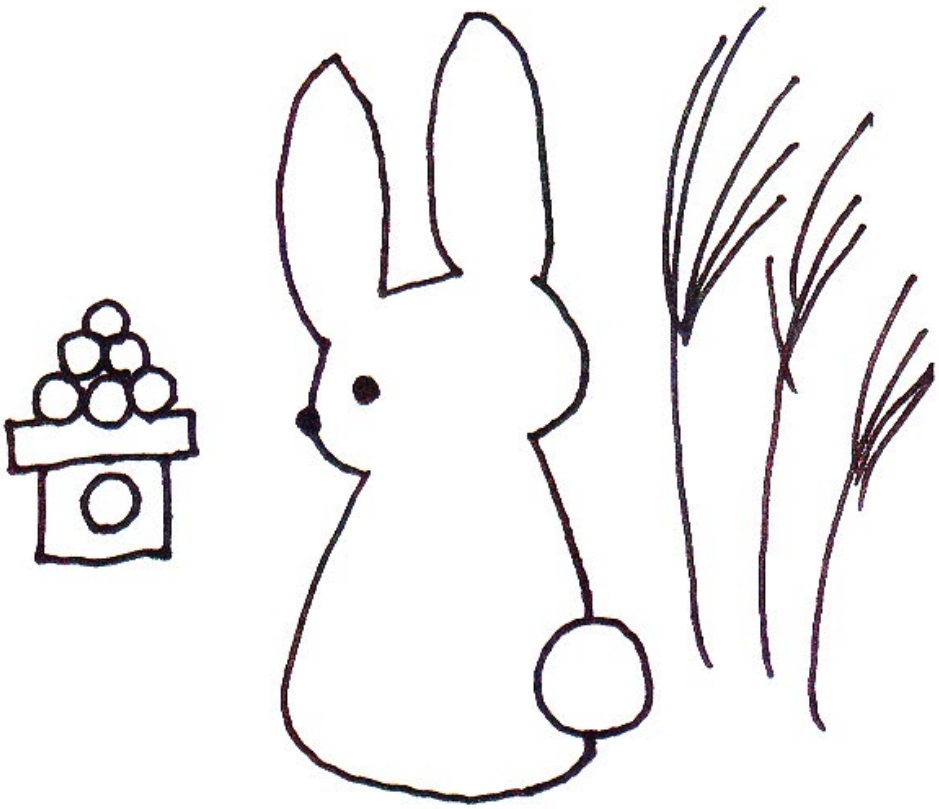
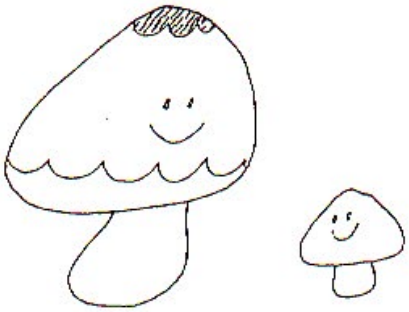
とよ・たち
美肌通信
⑨月号
Vo,86



ゆ友



9月号 表紙

今月号の表紙は、

きれいな満月を見ながら、

うさぎさんがお月見をしている、

とっても9月らしい絵です！ ススキも

風にふかれて、気持ちよさそう～

絵をかく事とハリーポッターのDVDを

見る事が好きで、走る事が得意な

女の子がかいてくださいました♡♡

ありがとうございます☺

院長はじめスタッフ一同心より

感謝いたします!!

最近「成徳達材」という言葉に出逢いました。「成徳」とは常に徳を高めていくこと。「達材」とは能力を錬磨し上達させていくこと。そのためには"学ぶこと"が必要であると書かれていました。この成徳達材は、人生における「自己創造」に重要だといいます。人は自分を創るために学ぶ。これ位なら誰にも理解に苦しむことではありません。しかし学び続けていくことによって、人生のあらゆる艱難辛苦にあっても動じない様になっていく。ここまでが自己創造の本質だと思うのです。自分を創るということは、自分だけのためではなく自分の家族、周囲の人々、社会のために自分を役立たせるのです。自分を役立たせるには、自分の才能能力を錬磨し向上させていく。そのために学びが必要になってくる。但しこれはいわゆる教科を学ぶ様な学問観だけを指し示しているのではなく、人は何のために働くかといった人生の目的そのものを表していると思うのです。
整理すると「成徳達材」とは自分を創ることと言えるのですが、その根本となるのが"学び"であると言えるのです。

では、その学びはどこで行うのか。
それは、子供であれば学校という社会・大人であれば会社という社会であると思います。
言いかえれば学びとは、どの様な人生観をもって働くかということの追求であると同時に、働かない限り成徳達材を成すことはないと考えます。

学んでいくと、「気づき」という瞬間に少なからず出くわします。この気づきが出ると成長します。気づきとは、「自問自答」とも言えます。つまり学ばない人、学ぶことを止めると自問自答も出来なくなり、そればかりか大切なことにも気付かなくなり、引いては本質を見落とした人生を送ることになります。

「子曰わく苗にして秀でざる者あるかな。秀でて実らざる者あるかな」論語の子罕篇にある一節です。
孔子には三千人の弟子がいたとされています。ところが、一所懸命に育て様としているのに全く花が咲かない者もいる。やっと花が咲いたと思ったら全く実を結ぶことがない者もいる。そうゆうことを何回も経験した上での孔子ならではの慨嘆なのでしょう。
では実を結ぶ人とそうでない人との違いを孔子は何といっているのでしょうか。

衛霊公篇の中で、「之を如何せん、之を如何せんと曰わざる者は、吾之を如何ともするなきなり」。
自分という人間はどうやったら立派な人間になれるか。どうすれば自分を深める(高める)ことが出来るかを問いかけ、変化することが出来なければ何を教えたところで意味はないと言っています。
私はこう思います。全ては教えを受ける側の態度次第です。之を如何せんというものが無ければ苗を植えても花は咲かないし実もならない。人生に対して真剣に求める心が無ければ何を教えても、手を施した所で運命を好転することは出来ない。
三千人いたとされる孔子の弟子に宰予という者がいた。宰予はある出来事を最後に孔子に見限られます。この男は日頃から勉強していると口では言っていましたが、実際は怠けてばかりいました。営業に出た人が公園で寝ていたり喫茶店でお茶を飲んで時間を潰している様なものだったのでしょう。その言行不一致を孔子は次の様に叱りました。「子曰わく、朽木は雕るべからず」 腐った木には彫刻できない。彫ろうとしてもボロボロと崩れてしまう。続けてこう言っています。「糞土の墻は杇るべからず」 壁を作る時には先ず、

土で下地を作りその上に更に土を塗り重ねていきます。しかし、下地に使った土が糞土（乾いて湿り気のない土）だといくら上塗りしたところで剝がれ落ちてしまう。要するにいくら口先で言っても心根の曲がった不真面目な人間にはいくら教育をしても無駄であると言っているのです。私達は決して朽木や糞土の牆にならない様にしなくてはいけません。

教えることには限界があります。自分で学び吸収しようとしない限りいくら教えても身にはならないのです。何十年経っても受け身であるなら成長はありません。会社で言うなら先輩をみてこれは良いことだから自分も真似しようと積極的に盗んでいく様な人間でないと成長しません。そのためには吸収しようとする意欲や熱意が必要です。それと同時に真摯さ素直さが必要です。これは一生に通じて言えることだとそう孔子は教えたかったのだと思います。

孔子同様、二宮尊徳もこう言っています。

「太陽の徳い広大なりといえども芽を出さんとする念慮、、育たんとする気力なきものは仕方なし」。

仕事から逃げることが目的で退職の理由に家族を持ち出す人がよくいます。例えば"家族と向き合う

ために”“家族との時間を大切にするために”とか。
よく耳にするのがプロ野球の外国人スケットです。
過去にも何人もの例があります。高額な契約金だけ持って自国に帰っていくのです。私は外人って家族愛が強い人だなー、愛があれば仕事をしなくても良いのだなーっと、子供の頃そう思ったことを覚えています。
しかし、この年になってそれは全く嘘であると確信しています。
私の母親は一人で私と弟を育ててくれました。私も弟もそうですが、幼少期に母とどこかに行ったり遊んだりした記憶は皆無です。私達の母親はそれ位、経営者として仕事を全うしていました。しかし、そうしていると子供は徐々に気付き出すのです。母親と手を繋いだ時、頭に白髪を見つけた時、母親の顔に皺が増えた時、母親の肩を揉んだ時、母親が言葉に出さずとも、母親が仕事をしている意味を必ず理解していきます。
例えー時期反抗期があったとしても。

私は仕事をすることこそが「成徳達材」の本質であり、より良き運命を創っていくことが出来る唯一無二のことと確信します。

院長 拝